

平成 28 年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

1 普及指導活動の体制（課内の分担・活動の進捗管理・普及指導員の資質向上の取組）

- スマホやタブレットを活用した普及活動を行っていないのか。効率化のためには必要。
効率的になることで、直接、コミュニケーションを取らなければいけないことに時間を割けるのではないか。
- 効率化できる部分と出来ない部分はある。業務にメリハリをつけること。例えば、新規就農者の確保の分野で普及指導員が主体的に取り組めるのか。人間的な接触の中で定住につながるの、そういったところに普及が関わるべき。移住対策より、Uターン対策が良いのでは。そちらを普及事業で取り組んではどうか。新規就農者の確保より育成に力を尽くした方が良い。
- 県にしかできないことはある。県では方向づけしてもらいたい。関係機関と連携してほしい。
- 1 J A 構想と連動させて普及活動との連携について、検討をすすめては。
- O J T は、お金と時間がかかりすぎるため、民間では最近では実施していない。もっと効率的に人材育成をするために、ノウハウをマニュアル化するなど、早期人材育成方法を考えてはどうか。
- 人が人を育てる仕事である。人と人が接する最前線の職場なので、人と人とのつながりを大事にしてほしい。タブレットなどで効率化は図りつつ、空いた時間をコミュニケーションや人材育成に使ってほしい。頼られる人材になるように。

2 普及指導活動の計画（普及課題の設定・対象の設定・関係機関との連携・目標設定）

- 普及課所間で成果を共有することで、普及計画の課題数を減らすことができるのではないか。
- 目的意識を持たない、向上心のない農家に指導することで産地の底上げが必要ではないか。そのような人に足しげく通うべきでは。意欲のある人には情報提供のみで良いのでは。
- 新規就農者の確保より育成に力を入れるべき。
- 農家の意識を変える部分に普及指導員が関わるべき。
- 成功要因は様々だが、失敗の原因は共通。失敗しないようにしてあげれば良い。
- 農業者も勉強しないとイケない時代。6次産業化も言われる中で、そのような人（勉強しない人）の意識をどう変えていけるかが課題。普及指導員は頑張ってくれている。
- 県にしかできないことはある。県では方向づけしてもらいたい。関係機関と連携してほしい（再掲）。関係機関との連携では、同じことを同じレベルでやらず、仕事の分担をすべき。

3 普及指導活動の成果（活動の経過・実績・成果・結果の周知）

- 成果をもっと発信してほしい。マスコミを使ってほしい。どんどん情報発信してほしい。
- 農家に普及活動が周知されてないこともある。そのため、目に見える形での情報発信が必要。
- 農家向けの情報を消費者に知らせることで、消費者からの情報発信も可能になる。

4 外部評価会に対する意見

- 資料作成に時間をかけすぎ。箇条書きで良い。わかりやすい資料にすること。
- 全体的にタイトすぎる。説明時間をもう少し長くすれば良い。但し、一度に3カ所するとなればやむを得ないか。

5 その他

- 雇用問題については、今後、人口減少は進むので、抜本的な規制緩和も必要ではないか。